

7月下旬より、西尾産「三河梨」収穫スタート 8月上旬のピークには1日10トンを集荷

JA西三河管内の西尾市では、7月下旬より梨の収穫がスタートします。市内で最も生産量の多い「幸水」が出荷ピークとなる8月10日頃が最盛期で、1日に2000ケース（1ケース5^{キロ}）が出荷される見込みです。

今年の梨は、春の開花が遅れた影響から着果不良もありましたが、収量に影響はなく、目立った病害虫の被害もなく順調。例年よりも2日～3日遅れており、やや小玉傾向です。

■収穫風景 取材対応日■

【日時】8月9日（水） 午後1時30分集合

【集合】JA西三河 高河原センター

（西尾市高河原町埋田104-1 電話：0563-52-3030）

※集合後、収穫を行っている農家の果樹園へご案内します。

※取材される報道機関の方は、JA西三河企画課の岡田までご連絡ください。

※雨天等天候不順の場合には収穫を行わない場合があります。その場合には、事前に取材のご連絡を頂いていた報道機関の方にはこちらからご連絡いたします。

■西尾市の梨生産■

西尾市内では70人の生産者が約20^{ヘクタール}で梨を栽培し、年間に約150^{トン}を生産（JA通したもののみの値）。主に愛知県内の市場へ出荷しています。

早生品種「幸水」が産地の主力を占めており、出荷が行われる8月上旬が山場。お盆前の単価が高い時期に出荷を行おうと、生産者は盛んに収穫を行います。



農家による収穫風景（昨年7月下旬）

西尾市の梨生産の概要

■西尾の梨生産の特徴■

西尾の梨は、梨ひとつひとつに袋をかける有袋栽培をしているのが特徴です。産地全体で有袋栽培を行っているのは三河地域では西尾市だけ。6月ごろに袋掛けされた梨は、収穫まで袋の中で大切に育てます。袋掛けにより果皮を美しく仕上げ、病害虫の被害を防ぐとともに、農薬の使用量・回数を抑えることができます。

また、交信攪乱剤（性フェロモン剤）を利用して害虫の繁殖を抑え、環境にやさしい防除の取組を行っています。他にも産地共通の栽培暦に基づく施肥・病害虫防除に努め、品種ごとの残留農薬検査を実施するとともに、個々の生産者の栽培日誌の記帳活動を実施。安全・安心で高品質の梨作づくりに努めています。



6月の袋掛け作業と収穫直前の梨

■定年帰農者を梨農家へ育成

「梨おとうさん会」の活動

兼業農家の定年帰農者を梨生産の担い手として養成しようと、平成19年、愛知県や西尾市、JA等が連携して「梨おとうさん会」を立ち上げました。

同会では自己研さんを目的とした講習会を開き、外部講師や愛知県農業改良普及課職員の指導のもとで摘果や新梢管理、病害虫防除などについて勉強するほか、視察研修会などを開催しています。

生産者の高齢化などで管理が困難となった梨園の管理（5月の摘果、11月の土壌改良、12～1月のせん定作業）も受託しており、地域の梨生産者の手助けとなるとともに、耕作放棄地の発生食い止めにも一役。また「梨おとうさん会」での経験を経て、JA西三河梨部会の役員や部会長に就任する会員も出ており、地域の梨栽培の中心となる担い手を輩出しています。



「梨おとうさん会」による
新梢管理の講習会

【生産者部会情報】

名称：JA西三河梨部会

部会員数：70人 耕作面積：約20[㍎]

【出荷団体情報】

名称：三河梨集荷センター

会員数：55人 出荷量：約150[㍎]（平成28年）

主な出荷品種と時期：

「幸水」（65%、7月末～8月上旬） 「豊水」（25%、8月下旬～9月中旬）

「あきづき」（6%、9月中下旬） 「新高」（4%、9月下旬～10月上旬）

流通：JA西三河高河原センターで荷受けののち、安城市の選果施設（※）で等階級別に分けられ、主に愛知県内の市場へ出荷されます。

※以前はJA西三河小牧センターの選果機にて選果を行っていましたが、選果機の老朽化に伴い、平成28年夏の選果を最後に稼働を終了しました。

※愛知県の日本なし収穫量：6,420[㍎]（平成27年、農林水産省の作況調査より）

西尾市では、梨の生産者団体「JA西三河梨部会」（栽培指導・共進会などを担当）と、出荷団体「三河梨集荷センター」（出荷・選果・販売）が分かれて存在しています。